

### 旭マルキ(株)が炊き出し機材を寄贈

5月24日、旭マルキ株式会社から炊き出しステーションが贈呈されました。災害時にも、この機材とガスがあれば、1回で120人の食事が準備できます。贈呈式で、小林営業所の松田博幸所長は「災害時に、役に立ててほしい」と話していました。



### 教師間で優れた授業ノウハウを共有

5月31日、学力アップリーダーの委嘱が行われました。委嘱を受けたのは、小中学校で質の高い授業を行う教諭ら32人。今後、各学校で授業の公開や教材の紹介などを行い、教諭一人一人の授業力を向上させ、児童生徒の学力を伸ばす取り組みを進めていきます。



### 父の日に牛乳を贈ろう

6月3日、市内の若手酪農家で作る酪農青年女性連絡協議会の会員3人が市長を訪問し、乳製品の消費拡大をPRしました。加藤教昭会長らは、乳牛柄の法被を着て訪れ、市長に新鮮な牛乳を贈呈。加藤会長は「父の日の贈り物として、牛乳を定着させたい」と話していました。



### 西諸の特別支援学級が合同運動会

6月11日、市民体育館で西諸県地区特別支援学級合同運動会が開催されました。西諸地区の小中学生、都城きりしま支援学校小林校の生徒や関係団体の職員ら約300人が参加。学校の垣根を越えて、玉入れ、リレーなどの競技やダンスなどで親睦を深めました。



### ホテル恋まつり 4年ぶり開催 優雅な舞に1万5千人が来園

5月25日から6月9日の間、4年ぶりに出の山ホテル恋まつりが開催されました。実行委員会では、より間近で飛翔を鑑賞してもらおうと、約20年ぶりに水路沿いの遊歩道を開放。多い日は約3,000匹が飛び交うゲンジボタルの優雅な舞に観賞客からは歓声が上がっていました。



目の前に来たホテルに手を触れ、楽しむ人も。今後も出の山ホテルの保護にご理解をお願いします

### 甘い果実を求めて長蛇の列 メロン・マンゴーフェア

6月1日、のじりこびあで第2回メロン・マンゴーフェアが行われました。市場価格より割安で、県産ブランド「めろめろメロン」、「太陽のたまご」や完熟マンゴーを販売。雨にもかかわらず、市内外から約3,500人が訪れ、メロン7,000ケースとマンゴー800ケースが売れる盛況となりました。



会場には、郵便局の臨時受付も設置。大量に購入し、贈答品として発送する人も多く見られました



### 芸術文化向上に貢献。市文化連盟が半世紀の節目祝う

6月1日、小林市文化連盟の設立50周年記念式典が文化会館で開催されました。渡邊布美子会長は「今後も文化を愛する地域づくりに貢献していきたい」とあいさつ。祝いの琴や日本舞踊の披露、画家貴嶋ユミさんの講演があり、連盟の功労者である殿所ハルエさん、押領司忠次さん、吉村チヅ子さんに表彰が贈られました。



1 画家貴嶋さんによる講演 2 文化会館ホールであったいけばな展 3 文化連盟の加盟団体であるフラダンスグループの公演 4 式典であいさつする渡邊会長 5 表彰を受ける押領司さん



宮崎県の救命救急の最後の砦として、ドクターヘリや救急救命センターを運営する宮崎大学医学部附属病院の池ノ上病院長

### 「役割分担と連携が重要」救急医療やドクヘリへの理解深める

6月23日、救急医療講演会が文化会館で開催されました。宮崎大学医学部附属病院の池ノ上克病院長の講演に医療関係者や市民ら280人が参加。池ノ上先生は「医療では役割分担と連携が重要」と理解を求め、ドクターヘリの導入によって変化する県の救命救急の現場を紹介しました。

### 「日頃のコミュニケーションを大切に」自殺対策を学ぶ

5月18日、文化会館で自殺予防フォーラムが開催されました。基調講演やパネルディスカッションなどで自殺予防について学習。宮崎県立看護大学教授の江藤敏治さんは、うつ病が自殺につながる事例を挙げ、「うつ病の予防には、日常生活のコミュニケーションが大切」と話していました。



青年会議所、NPO法人小林ハートム、小林ロータリークラブの会員ら5人が、意見を出し合ったパネルディスカッション